

## P-A-1 ALI/ARDS におけるシベレスタットナトリウムの効果—特に MOF との関連—

和歌山県立医科大学附属病院 救急集中治療部

高江洲秀樹 米満尚史 篠崎真紀 那須英紀

岩崎安博 中敏夫 川崎貞男 篠崎正博

【はじめに】ALI/ARDS では外傷・手術・熱傷・急性膵炎・敗血症などの全身炎症反応症候群（SIRS）に引き続き、遠隔臓器である肺に起こる肺実質の細胞傷害である。これまで当施設では気管支肺胞洗浄液（BALF）中の好中球活性酸素種（ROS）の測定を行い、ALI/ARDS における BALF 中の ROS 産生能測定が ALI/ARDS の病態解析および経過を知る上で重要であることを発表してきた。今回は好中球エラスターゼ阻害剤であるシベレスタットナトリウムの使用経験をまとめたので報告する。

【目的】シベレスタットナトリウムの当施設での使用経験を後ろ向きに解析する。【方法】期間は平成 13 年 8 月から平成 14 年 7 月までの 1 年間とした。期間中に当院 ICU でシベレスタットナトリウムを使用した症例 35 件のうち、ICU 退室までのデータが追跡できた 22 件の症例に対し APACHE II スコア、MOD スコア、SOFA スコア、肺障害スコアを算出し解析を行った。

【結果】平均年齢は 66.4 (±19.2) 歳であった。APACHE II スコアの平均は 14.4 (±3.8)、平均臓器障害数は 1.4 (±0.9) であった。P/F 比、PEEP 値、胸部 X 線スコアの 3 項目を合計して肺障害スコアとしたが、肺障害スコアは投与日数に応じて低下する傾向をみせた。MOD スコア、

SOFA スコアは改善の傾向はなかった。生存群と死亡群とに分けて解析を行うと、両者間で、平均年齢、臓器障害数、APACHE II スコア、原因疾患の間に有意差はなかった。肺障害スコアに関しては投与 3 日目までは両者間に差は無く、投与 5 日目以降より生存群で有意に肺障害スコアの改善が認められた。死亡群では肺障害スコアは悪化した。MOD スコア及び SOFA スコアに関しては、投与 3 日目より有意に生存群でスコアの改善が認められた。

【考察】シベレスタットナトリウムは SIRS における ALI/ARDS の肺障害スコアを改善させた。生存群と死亡群を比較すると、死亡群では肺障害スコアの改善に乏しかったが、早期に MOD スコア、SOFA スコアの上昇がみられており、多臓器不全の進行が肺障害の改善の妨げになっている可能性が示唆された。シベレスタットナトリウムの in vivo での効果判定のために BALF 中の ROS 産生能の測定は有用であると考えられ、これからの課題であるとする。また、シベレスタットナトリウムの投与のタイミング、適切な使用量、患者の重傷度による効果発現の違い等に関してはこれからも多施設で引き続き研究を進めていく必要があるものと考えられた。